

烏帽子会会報

2017年春号 Vol.62



白衣授与 Student Doctor 認定式 集合写真(H29.3.25)

- 第36回烏帽子会總會のご案内 3 p
- 教授 就任 挨拶 6 p
- 教授 退任 挨拶 8 p

福岡大学医学部同窓会

目 次

・ 総会案内		
第 36 回烏帽子会総会のご案内	3
・ 会長挨拶		
40 歳と退官式	高 木 忠 博 4
・ アンケート協力依頼		
アンケートへの御協力をお願いします	安 元 佐 和 5
・ 教授就任挨拶		
教授就任挨拶	三 浦 伸 一 郎 6
教授就任のご挨拶	藤 田 昌 樹 7
・ 教授退任挨拶		
退任にあたってのご挨拶	山 下 裕 一 8
教授退任挨拶	坂 田 則 行 10
教授退任挨拶	桑 原 康 雄 11
・ 学会開催報告		
第 65 回日本消化器画像診断研究会を終えて	植 木 敏 晴 12
・ 在外研修報告		
Mayo Clinic 留学体験記	三 嶋 崇 靖 13
・ 募集要項		
研究奨励賞募集要項／在外研修援助金募集要項	15
・ 学生会員支援報告		
白衣授与式を終え、BSL に向けての思い	西 泊 翔 太 16
・ キャンパス便り		
平成 28 年度 烏帽子会賞受賞者名簿	17
第 68 回西医体準優勝のご報告	河 村 夏 美 17
先輩の烏帽子会賞受賞を受けて	蓮 田 敏 也 18
M4 全医体準優勝を終えて	鎌 谷 魁 星 19
烏帽子会賞を受賞して	安 心 院 勇 佑 20
七校戦優勝のご報告	中 村 勇 太 朗 21
福岡大学医学部同窓会 烏帽子会賞褒賞基準	22
・ 訃 報		
水戸正樹先生との思い出	山 崎 節 23
在りし日の中村浩君を偲んで	豊 田 徳 明 24
清永 勉先生を偲んで	野 田 寛 25
・ 医局長・医長名簿	26
・ 教育職員人事	27
・ 事務局だより	27
・ 編集後記	(裏表紙)

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai

パスワード : fukudai1(数字)

第36回烏帽子会総会 開催要領

第36回 福岡大学医学部同窓会総会
(10回生・20回生・30回生 担当)

皆様こんにちは。
今年の第36回福岡大学医学部同窓会総会は、私たち20回生が幹事となって開催します。また、30回生が副幹事学年となっています。10回生の先生方は、担当された年から10年

になる今回、久しぶりに同級生と集まる機会とされませんか？ また、30回生の先生方は10年後には主幹事として開催しないといけませんので、どのような会がどのように行われるのか見学を兼ねて卒後10年目に集まってみませんか？

日時：2017年7月1日 土曜日

場所：ソラリア西鉄ホテル8階

福岡市中央区天神2丁目2-43

総会：17時～17時45分

講演会：17時55分～18時55分

(講演1.岡本嘉一(20回生)、講演2.馬場康彦(20回生))

懇親会：19時～

懇親会終了後は20回生の大同窓会も企画しています。卒後20年目にして初めてみんなが集まるチャンスです。是非大勢で集まって、大いに盛り上がりましょう。進捗状況をフェイスブックでお知らせしています。第36回福岡大学医学部同窓会で検索して下さい。

幹事：安部 洋(福岡大学脳神経外科)
岩田 敦(福岡大学循環器内科)
竹内一馬(那珂川病院血管外科)
下地栄壮(しもじ内科クリニック)
林田好生(福岡大学心臓血管外科)
光藤利通(福岡大学放射線科)
山口支部：伊藤真一(いとう腎クリニック)
熊本支部：菅村真由美(熊本大学耳鼻咽喉科)
鹿児島支部：重信秀峰(吉井消化器内科クリニック)

連絡先：下地栄壮

eshimoji@polka.ocn.ne.jp

〒811-0201 福岡市東区三苫 3-2-49

しもじ内科クリニック TEL 092-605-6300/FAX 092-605-6302

ご出席のご返事を、巻頭綴り込みの葉書で6月20日までにお送り下さい。

会長挨拶

40歳と退官式

烏帽子会 会長 高木 忠 博 (1回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



今年40回生が卒業しました。我烏帽子会は、40歳を迎えた事になります。1978年に卒業生が出てから40年の年月が経ちました。人間では、不惑の齢ですが、

丁度この年に、最初の自校出身主任教授である朔教授が退官となりました。退官式に出席しました。初代荒川規矩男先生の退官式と同じ日、同じ時間に執り行われました。

朔君は、1972年入学以来45年の間長く大学と共に人生を歩んで来ました。彼は、同学年の首席で卒業しましたが、先輩は皆無の状況でした。卒業し医師にはなりましたがこれから医師としてどのような人生を過ごすのかを、神さんから63人は問われたと思います。その時、数人の仲間と共に大学人としての人生を選択した一人が彼です。この選択は、全くの冒険の様な世界だったと思います。しかも、この世界で

の必須のゴールは、「教授職」でそれに到達する為の世界は、理解し難い程厳しい世界で、我々には経験者が誰一人いない世界でしたので相当な孤軍奮闘だったと思いますが、彼はその先陣を切って主任教授に為ってくれました。この世界を歩む事は、同時に母校を背負う事でもあります。その後、教授就任17年中に学部長に就任し学部活性化させ、同窓後輩三浦君に教室を無事にバトンタッチしました。これは、「自分で絵を描く」事を実現して来たと言えます。朔君の歩みと実績は、多くの同窓生、後輩にこれからの母校の発展と成長に絶対に必要な「自信」、「誇り」、「目標」の基礎を作ってくれたと思います。

小生が思いますに、彼は、首席卒業で「自分がやらねば、誰がやる!」位の思い入れで歩き続けていると思います。「自分で絵を描く」と云う事は、これは自慢話の様な低次元の話ではなく福大卒業生としての誇りを賭けた義務感の発露と思います。欧米にNoblesse oblige (高貴なる義務)と云う言葉がありますが、これがなければ実現が難しい事を、彼が見せてくれた様に思いました。最後まで全力で駆け抜けて欲しいと思います。



縁結びよりのお願い

以前からご登録の皆さまには大変ご迷惑をおかけしております。現在残念ながら成立がありません。同窓会は会員の皆さまの笑顔が好きなのです。

ご登録をお願いいたします。

また、良いアイデアがありましたらご意見をお聞かせ下さい。

よろしくお願いいたします。

文責 縁むすび担当理事 田野茂樹 (6回生)



－アンケートへの御協力をお願いします－

医学教育推進講座 教授 安 元 佐 和 (7 回生)

同窓会の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。

今年も3月に93名の卒業生を送り出し、既卒者と合わせて108名が医師国家試験を受験いたしました。結果は新卒77名(82.8%)既卒8名(53.3%)と奮わず、残念な結果となりました。これは国家試験がより臨床実践力を問う問題となり、必修問題が難化し小手先の国試対策のみでは対応出来ないことが一因です。

今後は基礎医学と臨床医学を統合した知識の応用と診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)の質の向上が求められます。学生も臨床現場でチーム医療の一員として役割と責任を担う実習が求められています。教員も座学で講義するだけでなく、多忙な臨床の現場で学生を指導するスキルと、学生側のより能動的で積極的な実習態度と多様な知識の獲得が課題です。

福岡大学医学部は、2018年6月に医学教育の分

野別評価を日本医学教育評価機構から受審します。これは福岡大学医学部の教育レベルが、医学教育の国際基準に合致しているかの外部評価となります。この受審に際し、福岡大学医学部で教育を受けた卒業生が、その後、医師としてどのような分野で活躍しているかも評価の対象になります。福岡大学の卒業生の多くが、地域医療の現場で活躍され、患者さんに最も近い場所で患者さんに寄り添った医療を提供されている現状を、外部評価の際にアンケートを基に明確に説明したいと考えています。つきましては同封のアンケートに御協力いただき、福岡大学医学部から良き臨床医が育っていることを、この分野別評価を通して社会に向けて公表させていただければ幸いです。

ご多忙とは存じますが、アンケートへの協力と同封の福岡大学医学部の使命と学修成果へのご意見も賜ればと存じます。

何卒、御協力の程、よろしく願いいたします。



福岡大学医学部の使命(ミッション)

医療のプロフェッショナルとしての誇りと広い視野を持ち、患者に寄り添い、地域社会に貢献する医師の育成

福岡大学医学部の学修成果(アウトカム)

福岡大学医学部の学生は、卒業時に

- ① 自尊心と高い倫理観を有し、他者と信頼関係を築くことができる。
- ② 確かな知識と技能に基づいた、人にやさしい医療を実践できる。
- ③ グローバルな視野で地域の健康増進と疾病予防に貢献できる。
- ④ 科学的探究心、論理的思考を身に付け、教育的指導ができる。

上記の学修アウトカムは以下のコンピテンスの領域(I～VI)ごとのコンピテンシー(43項目)により達成されます。

教授就任挨拶

教授就任挨拶

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 主任教授 三浦 伸一郎 (11 回生)



三浦 伸一郎
主任教授 略歴

1988 年 3 月
福岡大学医学部医学科卒業
1988 年 6 月
福岡大学病院内科学第二
臨床研修医
1994 年 3 月
福岡大学大学院卒業 博士(医学)
1994 年 4 月
福岡大学筑紫病院第一内科 医員
1995 年 6 月
米国クリーブランドクリニック・
ラーナー研究所・分子心臓病学
リサーチフェロー・リサーチアソシエート
2002 年 4 月
福岡大学病院循環器科 講師
2007 年 4 月
米国クリーブランドクリニック・
ラーナー研究所・分子心臓病学
客員スタッフ
2008 年 4 月
福岡大学医学部心臓・血管内科学
准教授
2010 年 4 月
福岡大学病院循環器内科
診療教授
2017 年 4 月
福岡大学医学部心臓・血管内科学
主任教授
福岡大学病院循環器内科
診療部長

2017 年 4 月、福岡大学医学部心臓・血管内科学講座の主任教授および福岡大学病院循環器内科診療部長に就任いたしました。私は、1988 年、福岡大学医学部を卒業後、福岡大学医学部・病院および米国クリーブランドクリニックにて循環器疾患の診療・研究・教育に従事して参りました。今後も福岡大学卒業生として勤務できますことを大変嬉しく思っております。

当講座は、1973 年 4 月に荒川規矩男名誉教授により「内科学第二」として開設され、2000 年 4 月から朔啓二郎教授が主管し、内科学講座の改変より 2007 年 4 月に「心臓・血管内科学」と講座名が変更となり現在に至ります。また、福岡大学病院では、「循環器内科」を標榜しています。循環器内科では、虚血性心疾患、不整脈疾患、末梢血管疾患、弁膜症、心不全、心膜・心筋炎、心筋症、肺高血圧症などの心臓・血管疾患と、冠危険因子の高血圧、脂質異常症、糖尿病、痛風、肥満などの代謝性疾患に対し日常臨床を実施しています。また、大学病院として非常に多くの患者さんへ最先端の検査・治療を提供しております。外来診療では、毎日、必ず 4～6 名の循環器内科担当医が診療をし、近隣医療施設からの相談や胸部疾患の救急患者の受け入れにも 24 時間対応しています。

私の専門領域は、「循環器疾患の一次・二次予防医療」です。最近の循環器疾患による死亡率を見ると、急性心筋梗塞による死亡率は年々減少し、心不全による死亡率が急激に上昇しています。さらに、2025 年問題として、「心不全パンデミック」という現象が懸念されています。これは、高齢化で心不全患者数が現在よりも約 20 万人も激増し、再入院も頻発してくるという現象です。このパンデミックにより、循環器医療への負荷が増大し、破綻の可能性が指摘され、その対策が急務となっています。そこで、心臓リハビリテーションシステムを早期に構築し、乾式サウナ装置による心不全に対する非侵襲的最先端治療などをはじめとした循環器疾患の再発予防医療に力を入れ、患者さんの Quality of Life (生活の質) を念頭に治療を継続しています。

当講座では、一般内科から循環器専門まで診療できる医師育成につとめ、多くの臨床試験を企画し、様々な先端治療や臨床エビデンスを創出し、教室全体に活気があり人を育てる環境にあります。さらに、教室員一同、患者さんへの「断らない医療」を展開しており、今後もなお一層努力して参りますので、宜しく願いいたします。

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 呼吸器内科学 主任教授 藤田 昌樹



藤田 昌樹
主任教授 略歴

1988年3月
九州大学医学部医学科卒業
1988年6月
九州大学医学部附属病院医員
研修医（呼吸器科）
1989年6月
九州厚生年金病院 臨床研修医
1990年6月
九州大学医学部附属病院 医員
（呼吸器科）
1991年4月
九州大学大学院医学系研究科
内科学専攻博士課程入学
1995年4月
九州大学大学院医学系研究科
内科学専攻博士課程卒業
1995年6月
九州大学医学部附属病院 医員
（呼吸器科）
1995年10月
西福岡病院 医師
1996年6月
九州大学医学部附属病院 医員
（呼吸器科）
1997年3月
National Jewish Medical and
Research Center, Research Associate
1999年9月
北九州市立医療センター 呼吸器科部長
2000年4月
九州大学医学部附属病院 助手
（呼吸器科）
2004年4月
九州大学病院呼吸器科 助手
（講師併任）
2007年6月
九州大学病院呼吸器科 講師
2007年10月
福岡大学医学部呼吸器内科学 准教授

2017年4月より、前任の渡辺憲太郎教授の後任として教授に就任いたしました藤田と申します。初代吉田教授、二代渡辺教授と、福岡大学医学部呼吸器内科学は、ゆっくりとですが、着実に進歩を続けて参りました。三代目として、ホップ、ステップ、ジャンプというように、教室の発展に全力を注いで参ります。

1988年に九州大学医学部を卒業後に、大学院（細菌学）、九州大学胸部疾患研究施設、アメリカコロラド州のナショナルジュエイツシュセンターなどで呼吸器病学の研鑽を行ってまいりました。西福岡病院や北九州市立医療センターなどの市中病院勤務の経験も積んでいます。2007年の福岡大学医学部呼吸器内科学講座開設を契機に福岡大学へ異動し、以降10年間、福岡大学で診療・研究・教育に努めてまいりました。

WHOによれば2020年には死亡原因の上位10位以内に慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺癌などの呼吸器領域の悪性新生物、結核の4疾患が挙げられています。予想を超えるスピードで高齢化社会を迎えつつあるわが国では、さらに呼吸器疾患の占める比重がますます大きくなっていくことと予想しています。これを踏まえ、今後教室として、診療・研究・教育の三本柱をさらに充実していく所存です。
(1) 大学の存在意義にも関わる研究に力を入れて参ります。初代吉田教授の伝統を受け継ぐ慢性閉塞性肺疾患、二代渡辺教授の間質性肺炎研究も行いながら、呼吸器感染症研究を充実させていきます。また肺癌領域は臨床研究が中心になっていますが、将来的には基礎研究も開始してまいります。

(2) 教育の充実ももう一つの柱です。残念ながら、呼吸器領域は学生に人気があるとは決して言えない状況です。学生に興味を持たせる教育への工夫、教育に力を入れていけるような評価体制を構築していく予定です。

(3) 大学だけではなく、福岡市西南部・糸島医療圏をカバーできる診療体制を早急に充実させてまいります。昨今の状況は、福岡大学病院だけで呼吸器疾患診療を賄える時代ではありません。終末期ケアをにらみながら診療を行うことができる地域医療連携を確立していきたいと考えています。

烏帽子会の先生方にもご協力をお願いしながら、呼吸器疾患診療充実に邁進していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

教授退任挨拶

退任にあたってのご挨拶

福岡大学医学部総合医学研究センター 山下 裕一
福岡大学医学部消化器外科



1994年5月に久留米大学より福岡大学医学部外科学講座第二に赴任して、その後23年にわたり皆様には大変お世話になりました。ご指導いただきました

多くの方々に深くお礼を申し上げます。そして、共に仕事のできた皆様からは多くの喜びをいただき、心より感謝いたしています。

思い返せば、23年間はあっという間の年月でした。赴任当初の印象深い思い出は、10代後半の女性の急性腹症手術のエピソードです。当時は緊急手術を受け付けられない手術部体制であり、それを知らずに手術を申し込むと麻酔科の許可が貰えず、麻酔科教授に直談判に行きました。20～30分間粘った末に、教授から“私は知らないが、手術を申し込むように”というような返事をいただき、ありがたく感じ緊急手術をした記憶があります。今も尊敬するその名物教授との貴重な出会いでした。

2003年10月には手術部教授として外科学講座だけでなく手術部における外科系全般の手術支援をする業務にも携わりました。2006年に福岡大学医学部消化器外科教授に就任させていただき、2016年3月まで教室の運営に携わると同時に大学病院の経営に関わる機会をいただきました。この間、医学部では教務委員と学生主担任・副担任、病院では副院

長、医療安全管理部長、病院長、全国医学部長病院長会議では大学病院の医療事故対策委員会委員、裁判所専門委員などを務めました。福岡大学や社会に貢献できる機会を頂きました。

学生教育では、教授就任当初には医学部5年生のBSLを重視し手洗いをし手術に積極的に参加させ、術前・術中・術後の外科診療に関わり直接病変を触れることで病態を理解し、術後管理で患者の回復を目の当たりにすることで外科のダイナミックさを経験することから始め、学生評価で高い評価を頂きました。また、学年講義での学生評価を重んじ、ベストレクチャー賞を頂くことができました。これらはひとえに教室員の並々ならぬ努力の賜物でした。私が主・副担任として6年間担当した学年の学生達は、国家試験合格においても例年に無い良い結果を残してくれました。この110名ほどの学生とは、少人数に分け全員と昼食を共にし、いろいろな問題点や将来の希望などを話す機会を得ることができましたことは、今となってはとても良い思い出です。

教室運営では、消化器外科初代教授として医学部より旧第一外科と旧第二外科の統合が私の主要な業務でした。その実現のためには、学生教育・外科学研究・外科診療の3要素をバランスよく運営する方法を用い、スタッフミーティングや医局会で公開しながら教室の発展を目指しました。全国学会総会主催を4回行い、教室員の団結を図りました。これらの総会主催では、教室員多数が上級演題の司会者や演者、ランチョンセミナー演者などを行うことができ

ました。

外科学研究では、当時、外科の時代は内視鏡外科手術に大きく舵を切り始めていた背景がありました。研究の内容は、基礎医学と臨床医学に分けて取り組みました。協力していただきました基礎医学教室は病理学、生化学、微生物・免疫学、そして学外の腫瘍免疫学などでありました。改めてお礼を申し上げます。教室内で行う臨床医学の研究は、外科臨床の現場で生じた解決すべき問題を研究課題として取り上げました。これら基礎医学と臨床医学の研究から多くの学位取得者を生むことができました。

消化器外科の診療は、カンファランスを第一義に掲げ、カンファランスでの合意を診療の優先事項としました。そこで発生した困難な診療結果は Morbidity & Mortality カンファレンスに必ず取り上げ、今後の防止策研究のためや医療安全管理対策を強化しました。手術手技については、外科医は他の外科医の手術に参加すれば自ずとその甲乙の判断は容易でありますので、この点に関しては苦労することはありませんでした。Evidence Based Medicine の時代となり、外科の先達により長年蓄積されてきた治療の経験則は、前向き比較試験や無作為比較対象試験 (RCT) で導き出された治療法には及ばない結果もあり、自ずと教室のデータによる Evidence

base の管理方法へと変化して行きました。このような教室の新しい外科学研究成果と相まって次々に教室独自の優れた治療法が出る結果となりました。

徐々に若手教室員達は外科診療の力をつけ、私の任期後半の入院患者数は 100 ~ 120 名程を受け持ち、開腹手術・内視鏡外科手術・治療内視鏡技術の成熟期が目前となり所謂“外科医力”を身に付けていました。若い教室員の更なる苦労になりますが、Acute Care Surgery 診療体制構築を開始しました。次世代の若手外科医の「病める人々を救う」の実践体制構築でもありました。対外的救急医療と院内の隙間医療にも貢献し、消化器外科は一部の医療従事者より福岡大学病院の院内救急隊とも呼ばれました。当時、私は副病院長や病院長職を兼任していた時期であり、教室員全員一丸となったエネルギーは素晴らしいものでした。これらは、終生忘れえぬ思い出です。

今、福岡大学医学部消化器外科は素晴らしい後任教授を向かえ、大きく発展しています。次世代の教室の躍動的な姿を見ることができるとはこの上ない喜びです。今日までの関係各位の皆様のご厚情ならびにご支援に心より感謝し、厚くお礼を申し上げます。



教授退任挨拶

福岡大学医学部 総合医学研究センター（病理）教授 坂田 則行（特別会員）



1987年1月1日付で福岡大学に助教授として着任し、本年3月31日に定年退職いたしましたので、福岡大学医学部同窓会の皆様には30年3か月間お世話になったこととなります。

福岡大学に着任する前の群馬大学では、脳血管障害の病理に関しては国際的に有名な大根田玄寿先生のもとで10年ほど高血圧性血管病変、ことに血管壊死や脳動脈硬化の病理学的研究を行っていました。この間助手、講師として学生教育や病理診断業務にも従事しておりました。その後、動脈硬化性疾患が日本人の主要な死因になり、これまでの研究をさらに発展したいと考え、福岡大学第二病理学教室に着任することを決心いたしました。

福岡大学着任当時は、動脈中膜平滑筋細胞と細胞外マトリックスとの相互作用について細胞生物学的側面から研究を始めました。その後、竹林茂夫教授のご尽力のおかげで日仏科学協力事業派遣研究員としてフランス・パリXII大学のL. Robert先生の研究室に一年間留学することができました。留学から帰ってからは糖尿病による動脈硬化促進機序を解明するためにタンパク質や脂質の糖化との関連について研究しました。福岡大学ではとても楽しく、自由な研究生活を送ることができました。ことに研究に関しては教室間の垣根が低く、基礎的な研究手技で困ったときには、いつも他教室の先生から適切なアドバイスや手助けをいただくことができ、前任の大学にはない家庭的雰囲気を感じることができました。おかげで研究成果を国際雑誌に発表し続けることができました。

前任の大学との違いを感じた第二点は教育の在り

方でした。福岡大学では担任制がひかれ、講義とはべつに、受け持った学生と日常的に接する機会が与えられました。時には一緒に学生と飲み会をしたり、相談を持ちかけられたこともありました。また、学内で学生とすれ違った時には気軽に声を掛け合うこともあり、教育については講義と試験だけという前任の大学とは全く異なる家庭的な雰囲気であったことは、教育にも楽しく取り組めた理由の一つであったと記憶しています。このような学生との付き合いはこれからも大切にしていきたいと思っております。また、国際センター委員として守山先生とともに、韓国大邱市にある啓明大学との医学生交流を基礎医学部門から臨床実習での交流へと進化させ、さらに姉妹校協定締結へと発展させたことは、生涯忘れられない充実した思い出として残っています。この間、この交流を实践するうえで、後輩のためにということで資金援助に二つ返事でご協力くださった福岡大学医学部同窓会には大変感謝しております。

病理診断業務については病理学教室が第一、第二に分かれていた時期と統合された後では異なりますが、現在の病理学教室での病理診断業務は他大学に引けを取らない素晴らしいシステムになっていると感じております。毎週開かれる病理カンファレンスには必ず問題症例や参考症例が提出され、教室員全員で検討し、勉強しています。また、各スタッフが自らの専門分野をもち、互いに教えあう体制になっているのは他大学ではあまり見られないのではないかと思います。このような素晴らしいシステムは今後も維持していけることを願っています。

最後に、福岡大学医学部の明るく自由な雰囲気の中で研究、教育、病理診断業務を続けことができたのは、福岡大学医学部同窓会をはじめとする教職員の皆様方のご協力のおかげと思っております。これからも、この福岡大学の良さが続き、さらに発展されることを期待しております。

教授退任挨拶

福岡大学病院 放射線部 教授 桑原康雄 (特別会員)



この3月で福岡大学を退職することになりましたが、12年間皆様には大変お世話になりました。

私は昭和52年に九州大学を卒業し、放射線科医としての

道を歩み始めましたが、4年間の研修ののち、核医学を専攻しました。その頃は丁度、PETを用いた脳核医学の黎明期にあたり、九州大学にも日本で5番目にサイクロロンとPET装置が設置され、その立ち上げを行うことになりました。その後、平成17年に福岡大学病院に移動しましたが、赴任して2年後、当時の病院長である白日先生の計らいでPET/CTを導入して頂きました。この間、脳血流から脳代謝、神経伝達機能、最近のアミロイドとタウ蛋白のイメージングと脳核医学の進歩を目の当たりにすることができ幸運であったなと思います。

12年前に福岡大学病院に赴任し、診療と教育のウエートが圧倒的に増えました。学部では、核医学の他に放射線生物学や放射線管理学を担当しましたが、CTやMRに比べ馴染みの薄い核医学を3年生

に興味を持ってもらうのは大変でした。それを補足するため5年生のBSLでは国家試験に出題された問題を具体的に示しながら核医学画像と病態生理の関連をできるだけわかりやすく解説することを心がけました。放射線管理学では放射線の人体への影響がその量により規定されるため目安となる数値をもとにした正しい知識を持つことが大切であることを繰り返し述べました。

専門医を目指す若い放射線科医の教育にも力を入れてきたつもりですが、放射線科専門医に加え、核医学専門医もできるだけ取得するよう指導し、この数年で6名が合格しました。福大に移って前半は核医学の専任スタッフは私ひとりでしたが、5年前に野々熊がスタッフに加わりました。“何でも楽しくやる”をモットーにしてきましたが、振り返ってみますと福大は本当に楽しいところであったと思います。これも放射線部と放射線科はじめ、まわりにいる方々のお蔭であったと思います。

福大病院は新病院の建て替えという大切な時期に来ています。出来るだけ早い時期に建て替えが実現し、福岡大学と福大病院がますます発展することを願います。本当に長い間ありがとうございました。



学会開催報告

第 65 回日本消化器画像診断研究会を終えて

第 65 回日本消化器画像診断研究会当番世話人

福岡大学筑紫病院 消化器内科 教授

植木 敏 晴 (8 回生)

第 65 回日本消化器画像診断研究会を平成 28 年 9 月 23 日と 24 日の二日間に渡って博多駅の JR 九州ホールで開催しました。本研究会が盛会に、そして無事に終了したことを心より感謝申し上げます。

福岡大学としては、恩師の福岡大学第一外科池田靖洋教授（現名誉教授）が平成 4 年に第 16 回の本研究会を担当されて以来、24 年振りの開催で、241 名と多くの先生方、コメディカル、学生の方々に参加して頂きました。

本会は、消化器病、特に肝臓、胆道、膵臓の良性、悪性疾患の診断や治療に積極的に取り組んでいる全国の消化器内科医、消化器外科医、放射線科医、病理医が一堂に会し、画像と病理の対応が可能な症例を集めて 1 例 1 例を詳細に検討することで、多くの新たな知見を得ることを目的としています。本会の長年に渡る活動が専門家の垣根を取り払い、グローバルな視点を持った若い消化器病専門医の育成にも貢献してきました。

今回もその伝統を継承し、一般演題では、病理コメントーターに加え、新たに放射線科の先生方に画像コメントーターを依頼し、九州を中心に全国の世話人の先生方に座長を依頼しました。1 例 1 例の症例報告に十分な時間をかけて、各種の画像検査と病理との対比を行い、多くの新知見を得ることができました。先生方のご協力で活発な質疑応答がなされ、会員にとって大変有意義であったと思います。

そして、各セミナーは、九州がんセンター消化器・肝胆膵内科の古川正幸先生に「Narrative evidence based medicine に基づいた膵がん化学療法」について、JA 広島厚生連尾道総合病院消化器内科の花田敬士先生と公益財団法人田附興風会

医学研究所北野病院消化器センター内科に「膵臓の早期診断を目指した医療連携」について、久留米大学消化器内科の石田祐介先生と近畿大学消化器内科の山雄健太郎先生に「胆膵疾患における最新の診断と治療」について、福岡大学筑紫病院消化器内科の丸尾 達先生に「新しい造影剤を用いた ERCP 関連手技」について、山梨大学内科学講座第一教室の深澤光晴先生に「胆膵領域の超音波内視鏡診断の進歩」についてご講演頂きました。参加して頂いた皆さんに最新の情報を提供でき、明日からの日常臨床に大変役立つ内容でした。

本研究会の発展とともに消化器画像検査が進歩し、その診断能が向上したことで、病理診断に迫る正確な画像診断が可能となり、治療方針の決定に貢献してきました。福岡大学筑紫病院の基本理念は、「あたたかい医療」です。患者さんにやさしい医療を提供できるようこれからも消化器画像検査、特に超音波と内視鏡を中心に臨床、教育と研究に邁進して行きます。今後とも何卒、宜しくお願い申し上げます。

最後に、福岡大学医学部同窓会、筑紫病院同門会および関連病院の先生方、他関係者の皆様、ご協力、ご支援、誠にありがとうございました。



在外研修報告

Mayo Clinic 留学体験記

福岡大学病院 神経内科・健康管理科 助教 三嶋 崇 靖 (31 回生)

福岡大学医学部同窓会より在外研究支援金を頂き、2016年10月から2017年3月までアメリカのフロリダ州ジャクソンビルにある Mayo Clinic, Department of Neuroscience, Dickson 研究室に留学させて頂きましたのでご報告致します。

私は、2008年に福岡大学医学部を卒業し、佐世保共済病院、九州大学病院で初期研修を行った後、福岡大学医学部神経内科学教室に入局致しました。福岡大学病院、福西会病院で内科、神経内科診療を行い、2014年10月から2015年9月まで京都大学 iPS 細胞研究所井上研究室で Perry 症候群の iPS 細胞を用いた研究を行いました (Parkinsonism Relat Disord. 2016; 30: 67-72)。Perry 症候群は常染色体優性遺伝の遺伝性パーキンソン病で2009年に福岡大学と Mayo Clinic との国際共同研究により原因遺伝子 (*DCTN1*) が発見されました。また、Perry 症候群の病理学的特徴である TDP-43 病理も福岡大学と Mayo Clinic のグループにより報告され

ています。今回、Perry 症候群の病理学的研究と国際診断基準の作成を目的に Mayo Clinic に留学致しました。

ジャクソンビルはフロリダ州最大の都市で北東部に位置しています。12月から2月にかけては、冬の装いが必要となりますが、年間を通じて温暖な気候が特徴で、ジャクソンビルビーチは、一年中多くの海水浴やサーフィンを楽しむ人々でにぎわっています。また、ジャクソンビルはアメリカンフットボール (NFL) チームのジャガーズのホームタウンでもあり、ジャクソンビル・ジャガーズの大ファンであるボスの Dickson 教授に NFL 観戦に連れて行って頂いたことはとても良い思い出となりました。

Mayo Clinic はジャクソンビル以外にミネソタ州ロチェスターやアリゾナ州スコッツデールに Clinic を有しています。特にジャクソンビルは Neuroscience の研究が盛んで、臨床部門、病理部門、基礎研究部門が連携し、国内外の施設とのコラボレーションが行



Dickson 研究室のメンバー

われ、非常に開かれた環境です。私が在籍していた Dickson 研究室は神経変性疾患を中心に病理学的研究を行っており、Dickson 教授は Perry 症候群のみならず、進行性核上性麻痺を含む神経変性疾患の病理学的研究において歴史的な発見に貢献してきた実績があります。

私は、今回の留学で Perry 症候群の TDP-43 病理やダイナクチン病理の再評価および睡眠障害のメカニズムについて検討を行い、臨床部門および基礎研究部門とのコラボレーションにより、Perry 症候群の国際診断基準を作成し、新たに Perry 病への名称

変更を提唱致しました。また、京都大学 iPS 細胞研究所で学んだ iPS 細胞や神経分化誘導法の技術を生かし、Perry 症候群の iPS 細胞を用いた研究プロジェクトを Mayo Clinic で立ち上げ、現在も共同研究は継続しております。

最後に今回の研究留学にあたり福岡大学医学部同窓会、坪井義夫教授、ご指導頂いた全ての先生方に心より御礼申し上げます。今後はこの留学で得られた経験を生かして福岡大学医学部の発展に尽力して参ります。



Mayo Clinic

姓 名	年度	回・学年	勤務先	地位役職	予定期間	留学先	支給額
三 嶋 崇 靖	28	31	福岡大学病院 神経内科・健康管理科	福大助教	1610-1703	Mayo Clinic in Floreda with Dr.Dennis Dickson in Department of Neuroscience	20 万円
富 永 健 二	28	30	福岡大学医学部 麻酔科学	福大助教	1708-1807	Clinic for Anesthesiology and Intensive Care,University Hospital Essen	20 万円
津 川 潤	28	準会員	福岡大学医学部 神経内科学	福大助教	1704-1803	University of Sydney Brain and Mind centre 94 Mallett Street Camperdown NSW 2050	20 万円
後 藤 昌 希	28	33	福岡大学病院 循環器内科	福大助手	1710-1810	University of California,Irvine	20 万円
宮 部 美 圭	28	M6	福岡大学医学部 医学科	学 生	1702-1703	マサチューセッツ総合病院 27 回生山田哲平先生引受	10 万円

平成 30 年度 福岡大学医学部同窓会 研究奨励賞 募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由(医学に関する研究論文又は研究計画)

申請方法：所定の申請書による(所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
T E L 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032
F A X 092-865-9484

締 切：平成 30 年 5 月 1 日 (火)

賞状・賞金：奨励賞(優秀論文賞を含む) 5 件以内

発表及び表彰：平成 30 年 7 月、第 37 回同窓会総会席上 必ず出席すること

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること

計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出すること

②申請書は同窓会ホームページからダウンロードするか、同窓会事務局に請求のこと

③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績(原著、著書、症例報告、学会発表)、
研究の独創性・重要性を十分に書くこと

※準会員の方もご応募下さい。

福岡大学医学部同窓会 在外研修援助金 募集要項

①長期研修

対 象：正会員、準会員(本会会費完納を条件とする)で医学の研究または医療技術の習得のため、
3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出のこと

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
T E L 092-865-6353(直通) 代表 092-801-1011 内線 3032
F A X 092-865-9484

援助金：1 件 20 万円を限度とし、年間 5 件以内

発 表：本人に文書にて連絡

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表すること

②研修中に生じた問題について同窓会は関与しない

③申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードのこと

※準会員の方もご応募下さい。

学生会員支援報告

白衣授与式を終え、BSL に向けての思い

西 泊 翔 太 (M5)

こんにちは。5年生の西泊翔太と申します。この度は、私ども5年生のためにこのような素晴らしい白衣授与式・Student Doctor 認定式を設けていただき、誠にありがとうございました。この場をお借りし5年生を代表して先生方にお礼申し上げますとともに、BSLを迎えるにあたっての抱負を述べさせていただきます。

私たち医学生は、今まで主に座学で体系的に医学を学んできました。この度烏帽子会よりいただいた、名前入り白衣に身を通し写真撮影に臨むとき、これからは座学ではなく臨床の場に立つのだということを実感しました。

これから医師になる私たちには、医療や社会を取り

巻く環境の変化に対応し、医療を担っていくことが求められています。臨床実習に臨むにあたっては、今までの学んできた知識がどのように実地で活かせるのかを学び、また患者さんやそのご家族の方との関わり方についても考えていきたいと考えております。

実際に臨床の場で患者さんと接し、学ばせていただくことに私はやりがいを感じています。一方で同時に、病棟に立つ以上、Student Doctor としての自覚と責任を持たなくてはならない、という思いもあります。これからの病棟実習を有意義なものとする事ができるように、実習に真摯に取り組み、5年生一人ひとりが成長することをここに誓い、お礼と抱負の言葉とさせていただきます。



白衣授与式・Student Doctor 認定式集合写真 (H29.3.25)

キャンパス便り

《平成 28 年度 烏帽子会賞受章者名簿》

愛好会名	受賞者	受賞対象
バスケットボール愛好会	団 体 表 彰	第 68 回西日本医科学生総合体育大会女子バスケットボール愛好会準優勝
剣道愛好会	中 山 敦 貴	第 68 回西日本医科学生総合体育大会 剣道愛好会 個人第 3 位
アーチェリー愛好会	鎌 谷 魁 星	第 31 回全日本医科学生アーチェリー競技大会 男子個人総合第 2 位
ゴルフ愛好会	団 体 表 彰	平成 28 年度七校戦 男子団体優勝
ゴルフ愛好会	中 村 勇 太 朗	平成 28 年度七校戦 個人優勝

第 68 回 西医体準優勝のご報告

福岡大学女子バスケットボール愛好会 河 村 夏 美 (M5)

まず初めに、栄誉ある烏帽子会賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。

この度、昨年 8 月に行われました第 68 回西日本医科学生総合体育大会 女子バスケットボール部門において、準優勝をおさめることができましたので、ご報告させていただきます。女子バスケットボール

部におきましては、今回だけでなく第 66・67 回の西医体でも烏帽子会からの表彰をいただいております。毎年の烏帽子会総会で先輩先生方からいただくご支援・激励のお言葉には感謝してやみません。本当にありがとうございます。

今大会は 28 大学が出場し、3 日間で行われまし



た。1、2回戦では、相手の得点を40点以下に抑えて勝利することができました。私が1年生で女子バスケット部に入部したときから、このチームの色はディフェンス力だ、と教えられてきました。先輩方が築いてきたものを引き継ぎ、結果に残せたことはとても嬉しく、キャプテンとして1年間頑張ったよかったですと感じる瞬間でした。最後の決勝戦は敗北に終わり悔しい思いをしましたが、この敗北を次に繋げていけるよう、これからも練習に励みたいと思います。

また、チームスポーツであるバスケットを通して、医師や看護師に将来必要なコミュニケーション力や協調性を育てていく場として、より良い愛好会を目指していきますので、これからもよろしくお願い致します。



先輩の烏帽子会賞受賞を受けて

福岡大学剣道愛好会 蓮田 敏也 (M4)



今回は私どもの先輩である中山敦貴 (M6) が第68回西日本医科学生総合体育大会において個人戦第3位となりました。この成績を受けて、烏帽子会賞を受賞することとなりました。

先輩が個人戦で戦っている間、私は個人戦には出場していませんでしたので、試合場の近くで応援しておりました。先輩は過去に西日本医科学生総合体育大会の個人戦で準優勝の経験はありましたが、優勝経験はありませんでしたので、今回の大会が優勝を勝ち取るには最後のチャンスでした。先輩は1年生の頃から西医体の優勝を目標としていたようで、きっとこの最後のチャンスには、並々ならぬ思いで臨んでいたことかと思います。私も応援という立場から、今回の大会こそは先輩に有終の美を飾ってもらいたいと願っておりました。しかし、最終的には準決勝敗退という結果に終わってしまいました。もちろん喜ばしい

成績ではありますが、先輩の目標を達成するにはあと一歩及びませんでした。

先輩は御自身の事を振り返り、「実際に達成できるものは、目標の一手手前までなのかもしれない」と話しておりました。この言葉の通り、先輩は6年間で個人戦準優勝までしか達成することができませんでした。「それなら、目標を西医体個人戦連覇にしていたら、一度くらい優勝できたのかもしれない」とも話していました。

確かに、自分もこれまでの経験で目標が達成でき

たことよりも、その手前に終わった事の方が多く感じます。この話は剣道だけでなく、普段の生活や、将来医者になったときの事でも同じなのかもしれません。これからは、自分が限界だと感じるより1つ上のステップを見据えた目標設定、ならびにその実行を心掛けていく所存でございます。

最後になりましたが、日頃より応援して下さる顧問の先生、OB・OGの先生、先輩方にこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。今後とも剣道愛好会を宜しく願い致します。

M4 全医体準優勝を終えて

福岡大学アーチェリー愛好会 鎌谷 魁星 (M5)

この度、第31回全日本医科学生アーチェリー競技大会にて、男子個人準優勝したことをご報告いたします。

これを書いている時は、既に四年生が終わり、もうすぐ五年生になろうとしている頃です。部活の引退を考え、BSLも始まり、まだ学生ではありますが社会の一員として組み込まれることとなります。私はこの四年間、与えられた勉強のみをこなし、それ以外は部活の事のみ考えていました。私は将来のことを一切考えていなかったのです。しかし、他の学部の方は、学生生活が終わる頃です。

本来であれば、ここで入賞の喜びを書くべきであり、それを書くつもりでした。ですが、これまでの自分を振り返っていると、自分の将来に対する準備の無さを痛感しました。

部活動を終えて思ったのは、世間への視野を広げるために他のコミュニティーを知ることだということです。自分の知っているグループのみに留まらず、少しでも興味があること、自分にとって必要と思うこと、人によって内容は違うと思いますが、共通して言えるのは、それに向けて挑戦するのは学生の間しかないということです。

この四年間何を学んだかと聞かれると、恥ずかし

ながらはっきりと答えられません。ですが、卒業まであと二年あります。この残された学生生活、自分に必要なことを見つめ直し、社会人への準備を整えようと思います。

最後になりましたが、これまで相談に乗ってくださった顧問の坂田先生、OB・OGの先生方、今まで本当にありがとうございました。



烏帽子会賞を受賞して

福岡大学ゴルフ愛好会 安心院 勇 佑 (M5)

はじめに、栄誉ある烏帽子会賞を頂きましたことを部員一同厚く御礼申し上げます。2016年10月29、30日に当愛好会主管のもと、熊本県玉名カントリークラブにて行われました2016年度九州医学部七校戦において男子団体の部で優勝致しましたのでご報告させていただきます。

昨年の九州医学部七校戦の男子団体優勝から2年連続での優勝のかかった大会で、主管校として迎えた今大会はどうしても勝ちたいと前回大会終了時から優勝を切望していた大会でした。ゴルフ競技の団体戦は、あらかじめ登録した5人のメンバーのうち大会時の上位4人のスコアが採用され、その合計で競います。自分のプレーが直接チームの勝敗に影響

するため、非常にプレッシャーのかかる中での大会でしたが、普段の練習の成果を発揮することができ、個人の部でも福岡大学の部員が優勝や準優勝を獲得するなどの成績を取ることができました。

現在の団体メンバーは高学年の学生が多く、数年のうちに卒業や引退をすることになりメンバーは変更されていきますが、この先も良いご報告ができるよう部員一同努力していきたいと思えます。

これまで多大なご支援を頂きましたOBOGの先生方、多くのことを指導して下さった先輩方、一緒に練習し、主管校として多くの準備を行ってきた部員、これらすべての存在が今大会の成績に関わっているのだと思います。本当にありがとうございました。



七校戦優勝のご報告

福岡大学ゴルフ愛好会 中 村 勇太郎 (M3)

最初に荣誉ある烏帽子会賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。

この度、私は平成 28 年度七校戦にて男子個人で優勝したことを報告いたします。

今回の大会は玉名カントリークラブにて開催されました。玉名カントリークラブは広大な緑となだらかな起伏が特徴の林間丘陵コースです。このコースの難しい所は、第 1 打目の落とし所が狭く、飛距離を活かした攻め方ではハイリスクとなるホールが多い点です。その為、前日の練習ラウンドではドライバーが不調で、OBを 6 回もしてしまい、90 も叩いてしまいました。本番のラウンドも出だしの 2 ホールでダブルボギー、ボギーと躓いてしまいました。しかし、逆に気

持ちが吹っ切れ前半の残り 7 ホールを 1 バディー、ノーボギーで回り、結果 79 というスコアで回ることができました。

今大会を通して、改めてゴルフはメンタルのスポーツだと思いました。大会中、後半に入るとスコアを意識するようになり、思うように体が動かなくなります。そのせいで、パーのかかった 1 メートル前後のバットですら、3、4 回も外してしまいました。ゴルフでは、強い精神力と高い集中力が大切なので、日頃の練習に精神面を鍛えるメニューを加えようと考えています。次の大会でもいい結果を残せるように日々精進していきます。

ありがとうございました。



福岡大学医学部同窓会 烏帽子会賞褒賞基準

1. (目的)
福岡大学医学部同窓会(以下烏帽子会という)は、その所属する学生会員が対外試合または活動において優勝し或いは優秀な成績を収めた場合、その団体または個人に対し、その栄誉を讃え賞状、賞金または賞品を授与してこれを表彰する。
2. (賞の名称)
この賞を烏帽子会賞という。
3. (対象試合等) 表彰の対象となる試合または活動とは、概ね西日本医科学生総合体育大会、九州 山口医科学生体育大会を含むその規模以上のものを云い、内容は単に体育関係のみならず学術、芸術等多岐に亘るものとする。
4. (申告書の提出) 烏帽子会は烏帽子会が表彰に値すると認めた団体または個人、或いは自ら表彰を希望する団体または個人に対し、烏帽子会賞申告書及び賞状の写しをを提出させる。
5. (表彰の審査)
表彰の審査及び賞金額の決定は理事会において行う。
賞金または賞品の支給基準額は別表の通りとする。
6. (表彰) 表彰は総会、理事会等の席上で行い賞金を授与し会報に掲載する。
付則 1, この基準は平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
2, この改正基準は平成 22 年 1 月 15 日から施行する。

別表) 烏帽子会賞の基準(学術部門)

		学会全国	学会地方会	その他
団体	優勝	50,000 円	30,000 円	その都度判定
	準優勝	40,000 円	20,000 円	その都度判定
	3 位	30,000 円	10,000 円	
個人	優勝	30,000 円	20,000 円	その都度判定
	準優勝	20,000 円	10,000 円	その都度判定
	3 位	10,000 円		

※シムリンピック 学会全国充当
CPR 選手権大会九州ブロック=学会地方会充当
CPR 選手権大会全国ブロック=学会全国充当

別表) 烏帽子会賞の基準(愛好会部門)

		西医体	全医体	九山	その他
団体	優勝	50,000 円	30,000 円	30,000 円	その都度判定
	準優勝	40,000 円	20,000 円	20,000 円	その都度判定
	3 位	30,000 円			
	4 位	20,000 円			
個人	優勝	30,000 円	20,000 円	20,000 円	その都度判定
	準優勝	20,000 円	10,000 円	10,000 円	その都度判定
	3 位	10,000 円			
	4 位				

※但し烏帽子会賞は同一大会に 1 個とし、上位の成績を表彰する。
参加チーム数の少ない場合は理事会にて減額することができる。
5 年連続受賞においては殿堂入りと賞し賞状を授与する。

訃 報

正 会 員	真 栄 城 兼 清 先生	平成 28 年	ご逝去 (4 回生)
正 会 員	水 戸 正 樹 先生	平成 28 年 9 月 5 日	ご逝去 (6 回生)
正 会 員	中 村 浩 先生	平成 28 年 11 月 6 日	ご逝去 (11 回生)
正 会 員	清 永 勉 先生	平成 29 年 1 月 25 日	ご逝去 (12 回生)
特別会員	曾 田 豊 二 先生	平成 29 年 1 月 13 日	ご逝去
正 会 員	片 岡 厚 生 先生	平成 29 年 4 月 2 日	ご逝去 (3 回生)

水戸正樹先生との思い出

山崎内科クリニック 院長 山 崎 節 (1 回生)

水戸正樹先生の訃報に接し、心からご冥福をお祈りいたします。

水戸先生との出会いは、昭和 47 年 4 月の福大医学部入学の時に遡ります。

入学時 147 名、多士済々であった一期生の中でも水戸先生は「お兄さん格」でした。イメージは物静かで、慎重で尚且つ温かなお考えの水戸先生に、皆一目置いていたと思います。私は実家が近くで、お父様が病院経営のほか県会議員をなさっており、父も存じ上げていたこともあって、何かしら親近感を感じておりました。

入学して半年、何故か水戸先生も私もラグビー同好会に所属しており、七隈祭で模擬店を出すことになりました。初めての学園祭、前夜祭の中洲から平和台球場までの「市内パレード」の後、見様見真似で「串刺しおでん」の模擬店を出しました。その準備のため、水戸先生のご実家で、夜遅くまで仕込み作業をしました。多分味は……。



宇部球場にて

初年度、同好会活動がはじまったのは、硬式庭球、準硬式野球、ゴルフとラグビーくらいだったでしょうか。中でもラグビーはほとんど経験者がいませんでしたが、現大分県ラグビーフットボール協会副会長の渡辺大介氏

の強い勧誘で、十数名が集められました。本学ラグビー部が練習するグラウンドの端っこで、細々と練習していました。夏には湯布院の自衛隊駐屯地グラウンドで渡辺先生の母校大分上野丘高校の合宿に混ざり、秋には修猷館高校のグラウンドで社会人の日本タンゲステンのチーム(2軍?3軍?)と初めての練習試合がありました。初代チームのウイングが高校時代に陸上部で短距離走をされていた水戸先生で、昔取った杵柄(?)軽快で飄々としたランニングスタイルでグラウンドを走り回っておられた印象です。最新の烏帽子会会員名簿でも所属クラブに「ラグビー」と書いてあるので、早々にクラブをリタイヤした私と違って心はずっとラガーマンだったのかもしれないね。

もう一つ。昭和 48 年の九州山口医科学生体育大会の際、山口宇部球場まで一緒に野球部の応援に行きました。水戸先生にクルマを提供していただき、権藤公和氏、林英之氏らと駆けつけました。まだ高速道路が十分に整備されていない時代、数時間を掛けて行きました。当時、水戸先生の愛車は中古の白いクラウン・ハードトップで、前進 2 段のトヨグライド仕様。エアコンも無く、頼みの三画窓も壊れていて、結構大変な思いをして帰ってきた覚えがあります。手作りの応援旗を振って応援する写真があります。水戸先生は既にトレードマーク化していた薄い水色のカーディガンを羽織って、にこやかにカメラに手を振っていらっやいます。

過酷(?)な池越えに難渋され、私たちとは離れ離れになってしまい、次第に疎遠となってしまいました。ご実家にいらっやいましたので、一度だけですがお母さまを診させていただいたり、私の次男とお嬢さんが同級生になったり、スーパーマーケットで買い物姿を



七隈祭パレード後

お見掛けしたりとしばしば接点があったのですが、所属医師会が違うこともあり、訃報は全く存じ上げませんでした。肺がんだったとお聞きしております。

水戸先生のやさしい笑顔を思い浮かべ、改めてご冥福をお祈りしたいと思います。

在りし日の中村浩君を偲んで

豊田消化器外科医院 院長 豊田 徳明 (11 回生)

仲間内では愛称“ひろ”、背が高く心根の優しい男であった。

MM82 で始まる学生番号、1982 年 4 月から新しい学生生活が始まった。最初のころ顔見知りはなく出席番号の近いグループでの学生生活。田中君、豊田、中村君、西田君、自然と会話をするようになった。

大学 2 年の春、私が交通事故で入院し 1 か月ほど出遅れた。解剖実習がオリエンテーションもなくスタート。そんな時手順を教えてくれたのが“ひろ”である。優しい男だった。

部活はバスケット、夏場はワンゲル。夏休み、“ひろ”と西田君が日本アルプスに登った時、テント場で昼食に永谷園のちらし寿司をお米と一緒に炊き込んだ。出来上がる直前 CM を口ずさんだ「あったかご飯に混ぜるだけ…ん?」、後の祭りである。鼻が曲がるほどすっぱかった。しかし文句も言わず食い、下山後、大学で笑い話にしていた。笑顔の絶えない男であった。

よくみんなでドライブに行った。霧島のコスモスを見に行った時、可愛い彼女を連れていた。二人きりの空間がうらやましかった。現在は奥さんである。ね、たかちゃん。大学 4 年新しい仲間が増え、スクーターレースに参戦。「中村タイフーン」熱ダレしない究極のブレーキシステム、開発者は“ひろ”だった。懐かしいよね、下河辺君。路上駐車して出られなくなった軽自動車を抱え上げ移動もさせた、まさに気は優し



く力持ちであった。助かったよね、古賀さん。大学 6 年、自習部屋で集合、勉強もそこそこに背振まで月見に行った。バカばかりやっていた学生時代、真ん中に“ひろ”が居た。



豊田先生

卒業後、それぞれの道に進んだが、定期的に行った同窓会。泥酔するのはいつも私と古賀さん、「飲みすぎたらいかんよお」「ひろ」の声が遠くから聞こえた。しかし、“ひろ”が持ってくる獺祭はうまかった。

平成 28 年 10 月古賀さんが慢性硬膜下血腫の手術を受け数人で見舞いに行った。頭におむつを着けた彼を真ん中に仲良く写真を撮った。それが最後に見た顔だった。

11 月 6 日、奥さんから突然電話があった。「ひろさ

んが、死んだ」。神経膠芽腫にも勝ち抜いた男が逝った、声が出なかった。通夜、私を除くみんなが寝顔を見に行った。優しい顔だったそうだ。

年末、北九州でプチ同窓会を行い、“ひろ”からもらった獺祭で献杯した。ま、そっちでまっけてくれ、時期が来たらぼちぼち一人ずつ酒瓶をもって杯を交わしに行くから。

執筆にあたり加筆、校正に協力いただきました田中彰一君、西田富昭君、下河辺建彦君、古賀賢二君に感謝し、亡き中村浩君に捧げます。



清永 勉先生を偲んで

(医) 社団 瑞穂会 野田医院 理事長 野 田 寛 (4 回生)



4 回生の清永 勉さんが平成 29 年 1 月 25 日に心筋梗塞により 67 歳でご逝去されました。同じ市内に居りながら、突然の訃報に接し、ただただ呆然とするばかりでした。

私の人生において、思い出のある場面を共有する人が亡くなるのは、つらく、悲しく、さびしく思います。

清永 勉さんは通称「きよさん」と呼ばれ、穏やかで物静かな、優しい方でした。きよさんとは、私の人生において、4～5 歳の頃、大学時代の頃、延岡市に帰郷して現在にまでと三回交流があります。4～5 歳の頃は父が現在の地に開業する直前の勤務先がきよさんの御父君と同じで、職場の病院の中庭で 2 歳年上のきよさんに遊んでいた記憶があります。大学に入学して再会したわけですが、1 期生として入学して、4 回生として卒業したのですが、奇遇にも私もまさに同じ道を歩きました。物事を一から紐解いていく生真面目な性格のために、試験直前になると最後まで追いつけなくなり、タイムアウトになることがあり

ました。大学時代には、外科医は両手を器用に使えるようになる鍛錬として帆船の模型作りが適していると言うので、1 隻作ってもらいました。きよさんの御父君の応接間には帆船模型が沢山飾ってありました。またお酒が好きで、果ては居酒屋でアルバイトしており、おごってもらったこともありました。延岡市に戻ってきてからは、外科と内科で科が違うので、学会で会うのは年に 1 回位でしたが、医師会理事として 2 年間ご一緒させていただきました。支部同窓会には始めの頃は出てくれていたのですが、そのうち出なくなりしました。

福岡大学医学部を卒業後は、ご親族が沢山いる久留米大学病院の血管外科に入局して、研鑽を積み延岡へ帰郷しました。きよさんのご実家は、延岡市の私立病院では一番大きい総合病院で、195 床の伸和会共立病院です。亡くなるまで、その病院院長をしていました。息子さんが 2 人、次男さんが九州保健福祉大学薬学部を卒業する直前でした。まだまだお願いしたい仕事や役がたくさんありました。あまりにも早く逝ってしまわれて非常に残念です。

安らかな死に顔は今にも眼を覚ますようでした。

さようなら、きよさん。またそのうち皆で会いましょう。

医局長・医長名簿

(○内の数字は福大医学部卒業回)

平成 29 年 4 月現在

	医 局 長	病棟医長	外 来 医 長
[福 岡 大 学 病 院]			
腫瘍・血液・感染症内科	田 中 俊 裕 ^{①⑦}	佐々木 秀 法	茂 木 愛 ^⑤
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	田 邊 真 紀 人	寺 脇 悠 一 ^{③①}	田 邊 真 紀 人
循 環 器 内 科	小 川 正 浩 ^④	志 賀 悠 平 ^⑥	岩 田 敦 ^{②⑩}
消 化 器 内 科	森 原 大 輔 ^②	高 田 和 英 ^⑤	横 山 圭 二 ^②
腎 臓 ・ 膠 原 病 内 科	三 宅 勝 久	植 木 尚 子	浜 内 亜 希 ^⑩
血 液 浄 化 セ ン タ ー		升 谷 耕 介	
呼 吸 器 内 科	松 本 武 格 ^②	串 間 尚 子	石 井 寛
神 經 内 科 ・ 健 康 管 理 科	合 馬 慎 二 ^③	藤 岡 伸 助 ^⑥	深 江 治 郎
精 神 神 經 科	吉 良 健 太 郎 ^③	原 田 康 平	黒 岩 健 輔 ^③
〃 (デ イ ケ ア)			飯 田 仁 志 ^③
小 児 科	野 村 優 子 ^②	井 原 由 紀 子	藤 田 貴 子 ^②
消 化 器 外 科	吉 田 陽 一 郎	小 島 大 望 ^⑥	塩 飽 洋 生 ^⑥
呼 吸 器 ・ 乳 腺 内 分 泌 ・ 小 児 外 科	吉 田 康 浩 ^④	早 稲 田 龍 一	今 村 奈 緒 子
整 形 外 科	前 山 彰 ^⑤	田 中 祥 継 ^⑥	田 中 潤
形 成 外 科	川 上 善 久	瀧 上 淳 太	森 田 愛
脳 神 經 外 科	安 部 洋 ^⑩	小 林 広 昌 ^③	森 下 登 史
心 臓 血 管 外 科	峰 松 紀 年	林 田 好 生 ^⑩	松 村 仁
皮 膚 科	柴 山 慶 継 ^⑦	古 賀 文 二 ^③	山 口 和 記
泌 尿 器 科	入 江 慎 一 郎 ^{①⑦}	古 屋 隆 三 郎 ^③	松 崎 洋 吏 ^⑦
産 婦 人 科	宮 原 大 輔 ^⑩	倉 員 正 光 (産 科)	讃 井 絢 子 ^④
〃		南 星 旭 ^⑧ (婦 人 科)	
眼 科	佐 伯 有 祐	日 吉 篤 史 ^⑦	有 田 直 子 ^⑮
耳 鼻 咽 喉 科	大 西 克 樹 ^⑤	竹 内 寅 之 進	佐 藤 晋 ^⑩
放 射 線 科	光 藤 利 通 ^⑩	赤 井 智 春 ^⑦	野々熊 真也 ^④
麻 酔 科	平 井 孝 直 ^⑤	廣 田 一 紀	柴 田 志 保 ^⑥
歯 科 口 腔 外 科	近 藤 誠 二	喜 多 涼 介	瀬 戸 美 夏
病 理 部	溝 口 幹 朗 ^⑥		
臨 床 検 査 部	大 久 保 久 美 子		
輸 血 部	熊 川 み どり		
救 命 救 急 セ ン タ ー	川 野 恭 雅 ^⑩	入 江 悠 平 ^{③①}	
総 合 周 産 期 母 子 医 療 セ ン タ ー		大 田 栄 治 ^{①⑨} (新 生 児 部 門)	
		柳 祐 典 (3 階 南 病 棟)	
総 合 診 療 部	武 岡 宏 明 ^⑤	増 井 信 太 ^⑩	堀 端 謙
東 洋 医 学 診 療 部	久 保 田 正 樹 ^④		
[福 岡 大 学 筑 紫 病 院]			
筑 紫 病 院 (総 医 局 長)	山 本 良 太 郎		
循 環 器 内 科	白 井 和 之 ^⑧	岡 村 圭 祐 ^④	山 本 智 彦 ^⑩
内 分 泌 ・ 糖 尿 病 内 科	※ 工 藤 忠 睦 ^③	阿 部 一 朗	小 林 邦 久
呼 吸 器 内 科	赤 木 隆 紀 ^④	宮 崎 浩 行	原 田 泰 志
消 化 器 内 科	光 安 智 子	小 野 陽 一 郎 ^⑥	石 川 智 士 ^③
小 児 科	吉 兼 由 佳 子 ^{①⑨}	堤 信 ^④	鶴 澤 礼 実
外 科	平 野 公 一 ^④	槇 研 二 ^④	濱 武 大 輔 ^⑩
整 形 外 科	秋 吉 祐 一 郎	南 川 智 彦	野 村 智 洋 ^⑦
脳 神 經 外 科	坂 本 王 哉 ^⑧	新 居 浩 平 ^④	井 上 律 郎 ^③
泌 尿 器 科	平 浩 志 ^⑮	平 浩 志 ^⑮	宮 島 茂 郎 ^②
眼 科	本 多 博 一	高 橋 理 恵	本 多 博 一
耳 鼻 い ん こ う 科	杉 山 喜 一 ^{③①}	杉 山 喜 一 ^{③①}	樋 口 仁 美
放 射 線 科	山 本 良 太 郎 ^②		
救 急 科	松 尾 邦 浩 ^⑧		
麻 酔 科	平 田 和 彦 ^⑫		
病 理 部	原 岡 誠 司		

※印は循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）
〔平成 28.10.2～29.4.1〕

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退職	病理学	教授	坂田 則行	29.3.31	
	消化器外科学	教授	山下 裕一	29.3.31	
	放射線部	教授	桑原 康雄	29.3.31	
	筑紫脳神経外科	教授	風川 清	29.3.31	
	薬理学	准教授	喜多 紗斗美	29.3.31	
	腎臓・膠原病内科	准教授	笹 富佳江 ^⑬	29.3.31	
	手術部	准教授	山内 靖	29.3.31	
	消化器内科	講師	阿南 章 ^⑱	29.3.31	
	再生医療センター	講師	伊東 威 ^⑳	29.3.31	
	脳神経外科	講師	竹本 光一郎	29.3.31	
	臨床検査部	講師	松本 直通 ^⑭	29.3.31	
	皮膚科学	講師(4-7)	伊藤 宏太郎 ^⑳	29.3.31	
	救命救急医学	講師(4-7)	梅村 武寛	29.3.31	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	講師(4-7)	榎本 康子 ^㉑	29.3.31	
	総合周産期母子医療センター	講師(4-7)	甲斐 裕樹	29.3.31	
麻酔科	講師(4-7)	楠本 剛	29.3.31		
筑紫脳神経外科	講師(4-7)	伊香 稔	29.3.31		
採用	放射線部	准教授	長町 茂樹	29.4.1	
	腎臓・膠原病内科学	准教授	升谷 耕介	29.4.1	
	スポーツ科学部	准教授	重森 裕 ^㉒	29.4.1	
	再生医療センター	講師	吉松 軍平	29.4.1	
	皮膚科学	講師	山口 和記	29.4.1	
昇格	心臓・血管内科学	教授	三浦 伸一郎 ^⑪	29.4.1	
	呼吸器内科学	教授	藤田 昌樹	29.4.1	
	病理学	准教授	二村 聡	29.4.1	
	神経内科・健康管理科	准教授	緒方 利安	29.4.1	
	内視鏡部	准教授	竹田津 英稔	29.4.1	
	放射線科	講師	藤光 律子 ^⑧	29.4.1	
	救命救急センター	講師	喜多村 泰輔 ^⑯	29.4.1	
	消化器内科	講師	森原 大輔 ^⑳	29.4.1	
	皮膚科	講師	古賀 文二 ^㉓	29.4.1	
	産科婦人科学	講師(4条7項)	宮原 大輔 ^㉑	29.4.1	
	歯科口腔外科学	講師(4条7項)	喜多 涼介	29.4.1	
産婦人科	講師(4条7項)	南 星 旭 ^㉒	29.4.1		
救命救急センター	講師(4条7項)	川野 恭雅 ^㉑	29.4.1		

事務局からのご連絡

- ◆会報を広く情報伝達の場に…医学部、病院、同窓会、会員、それぞれの人が、それぞれの相手に蟠りなく伝えて欲しいと願っています。教室、部門紹介など、何時でも何度でも何回でも投稿下さい。広く、躍動する情報テーブルになればと願っています。
- ◆年4月から研修をスタートされた先生、勤務先が変わられた先生は同窓会へお知らせ下さい。先輩方が歓迎会や講演会などの連絡を差し上げたいと言われております。会報にあります住所・勤務先連絡票にて事務局までお願いいたします。



Congratulations

TOP TEN Medical Students

2017.4.3. *Les Celebrities*



編集後記

2017年の烏帽子会報春号をお届けします。今春も新たな医学部医学科第40回卒業生を送り出し、表紙写真のStudent Doctorを認定し、新入生を迎え入れ、2017年度が始まりました。烏帽子会は、上の写真のようにM4 CBT(共用試験)成績上位10名の表彰を行い、烏帽子会賞として部活動での大会成績に対する表彰を行うなどの学生会員支援はもちろん、研究奨励賞、在外研修援助金といった若手医師への研究支援、同窓会支部への講師招聘援助などOB会員への支援もチーム一丸となって全力で行っております。2016年のリニューアル後、ページビュー数が増えご好評の烏帽子会ホームページにおいても、同窓会の活動状況を随時ご報告させて頂いておりますので、本会報と合わせてご活用下さい。尚、会員専用のユーザーID、パスワードが必要な際は、本会報表紙裏をご参照下さい。

福岡大学 北島 研 (21回生・広報担当理事)

烏帽子会会報第62号

発行日 平成29年5月15日
発行人 高木 忠博
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷(株)
福岡市中央区長浜2-1-30
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901